

人と人のつながりで長崎の未来をつくる

長崎伝習所は、昭和 61 年にまちづくりの人材育成とネットワークづくりを目的として設立されました。その名称は、幕末期に長崎に設置され、多くの人材を輩出した「海軍伝習所」「医学伝習所」などに由来しており、長崎の活性化につながる人材育成の場になるようにとの願いが込められています。

長崎伝習所が行う「塾事業」では、これまで 270 の塾が、長崎のまちづくりに関する様々な取り組みを行い、卒業した塾生の総数は延べ 9,404 人に上ります。

平成 28 年度も、長崎で 5 つの塾、東京で 1 つの塾が、長崎独自の歴史、文化や自然に着目した魅力あふれる幅広いテーマで、それぞれの目標に向かって調査・研究に励みました。

また、「塾事業」の他に「つながり事業」にも取り組みました。まちづくりリーダーの養成を目指す「ファシリテーター養成講座」では、日本ファシリテーション協会の堀公俊氏を講師に迎え、ワークショップの技術を学ぶことなどを通じて、地域の人と人をつなぐ人材を育成しました。

「まちコツアカデミー」では、福岡県内で「まちの駅」の仕組みを展開して、まちと人、人と人を結びつけるまちづくりを実践している、(株)まちづくり計画研究所代表取締役の今泉重敏氏を講師としてお招きし、事例発表を聴いたり、意見交換を行ったりしました。その後は、実際に福岡県の宮若市と粕屋町を訪れ、様々なまちの駅の取り組みを見学して、自分たちのまちでどのように活かすことができるかを考えました。

今年は新たに、長崎の若い人たちがまちづくりに参加するきっかけをつくる「カタリバ事業」もスタートしました。「U-30 からはじめる長崎のまちづくり会議」で様々な企画を行ってきた岩本諭氏と森恭平氏によるトークセッションを通じて、長崎のまちで若い世代がどのように充実した生活を送り、まちづくりを進めていくことができるかを考えました。

長崎伝習所では、今後も様々な視点から、まちづくりのための人材育成に取り組んでまいりますので、多くの市民の皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、塾長をはじめ塾生の皆さまのご努力と、お忙しいなかご指導いただきました運営委員の皆さま、並びに、長崎伝習所の活動にご協力をいただきましたすべての皆さまに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月 長崎伝習所 総長 田 上 富 久



運営委員からのメッセージ



●運営委員 座長 兵働 馨

長崎伝習所の塾活動は、まちづくりの想いを持った塾長とその想いに共感した塾生が集まって自分たちのまちづくりに取り組んでいくという活動です。これまでに270の塾が長崎のまちづくりに関わるテーマで活動し、その後、市民活動団体として活動を継続している塾もたくさんあります。自分が共感する塾に塾生として参加したことで市民活動を始めるきっかけとなった市民もいます。長崎のまちづくりに参加するための身近な課題はまだたくさんあります。新たな塾の提案をお待ちしています。



●運営委員 豊田 菜々子

私が運営委員に携わらせて頂き、有り難いことに早くも3年が過ぎました。最初は、右も左も分からずに皆さんの塾活動へ対しどのようなサポートを行えば良いのかわかりませんでした。塾長をはじめとし、塾生の皆さんの活動に対する熱い想いを感じていく中で、運営委員として何が出来るかが少しずつ見えてきたように感じます。皆さんの姿を拝見させて頂けることで、私自身が初心に戻るきっかけにもなりました。平成29年度の塾活動も楽しみながらサポートしていきたいと思えます。



●運営委員 河村 規子

思い起こせば、昭和63年「ふるさと創生1億円」の使い途をどうするかで、日本中の自治体はあれよこれよと頭を悩ませ、一番多かった使い途は温泉のポーリング、しかもほとんどが失敗に終わったと聞いています。それに比べ、長崎は「長崎伝習所」基金を創設。これまでの実り豊かな270の塾を振り返りながら、温泉掘らずに良かったな、と思います（笑）長崎伝習所は長崎創生のための人材育成の場。これからも、楽しく暮らしやすい長崎づくり、長崎磨きのために、私もみなさんと一緒に頑張っていきたいと思えます。



●運営委員 尋木 章弘

少子高齢化は地域にさまざまな影を落としています。近年、年度末になると新聞のローカル面には小中学校の閉校や統廃合の記事が増えます。

転勤を伴う職場にいる方などは、かつて勤務した地域で子どもが通った学校が閉校したというようなことを聞くと寂しく感じることでしょう。ましてや先祖代々その地域に住んでいる方は寂しさを通り越して、地域の将来に対する不安が募るのではないのでしょうか。ではどうすればその流れを抑えることができるのか。“特効薬”は見当たりませんが、問題意識を持った人たちが集まって交流すれば自然と知恵が生まれると思います。

地域の伝統や文化に根差して暮らしてきた住民の力をベースに、Uターン、Iターン者など地域の良さや欠点を客観的に見ることができる人の目も取り入れることも必要でしょう。長崎はもともと、外から人や物が集まって発展してきた地域。ハイブリッド(雑種)的な感覚が生きる街だと思います。長崎伝習所にもそうした役割が期待されるように思います。



●運営委員 平川 友美

平成24年度から5年間、長崎伝習所の運営委員を務めました。いくつもの塾活動や、つながり事業などでの市民の皆さんの積極的な取り組みを間近で見せていただくことができ、この街が持つ大きな力を感じることができました。平成28年度、長崎伝習所の取り組みは、31年目を迎えました。これからの時代の変化の中で、様々な課題へのアプローチが、長崎伝習所の事業として行われていくことでしょう。特に、この街で暮らす大学生や社会人の若い世代の皆さんが、楽しみながら、どんどん長崎伝習所に関わってってもらえたら、もっと長崎の街が元気になっていくと思います。私も、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。